

## 三原市民と市長の「みらいトーク」(第36回)実施結果

日 時 令和6年5月21日(火) 18時00分から19時30分まで

場 所 三原市役所4階 第一応接室

テーマ R5年度・R6年度新規設立自主防災組織の活動と課題について

参加者 新規設立自主防災組織代表者(5名)、自主防災組織連絡協議会役員(2名)、岡田市長

内 容 市長が質問し、参加者と意見交換

### 1 各組織の紹介と課題等について

#### 【参加者から】

- ・組織の活動が形骸化していたため、活動を活性化することと併せて、未設立地域もカバーするため、元々の組織も含めた連合町内会単位で新たに組織を設立したばかり。3年前から行動を始め、何とか60名くらい協力いただける方を集めることができた。今後は月1回のペースで何らかの活動をしていきたい。
- ・世帯数が少なく、設立の機運もなかったが、今年度初めに会長として半ば強引に組織を立ち上げた。地域の中では自分が若い方なので、がむしゃらに活動することで、年配の世代にも子どもの世代にも活動が浸透していけばいい。
- ・地元の地域は3つの地区に分かれているが、自分の地区だけ組織が未設立だった。平成30年災害でも多くの箇所です砂崩れが発生した地域なので、これではいけないと思い組織の立ち上げを企画したが、最初は人が集まらなかった。今年度立ち上げたばかりで、まずは防災に関する知識をみんなで増やしていきたいと考えている。活動の中心が70代~80代なので、若い世代にも活動を担ってもらいたい。
- ・元々町内会単位で組織がいくつかあったが、昨年度、小学校区単位で組織を設立した。市や消防、小・中学校の児童、生徒とも連携した防災訓練を年1回行っている。また、防災資機材等の整備にも力を入れている。場所によっては指定避難所が遠く避難を躊躇される方もいるので、地域の避難所を考えていく必要がある。
- ・元々組織の必要性は地域で認識があったが、会長が2年交替のため設立までは至っていなかった。市の出前講座を依頼し役員で組織の必要性を勉強し、昨年度設立した。組織内アンケートでは共助の関係づくりや地域の危険箇所の把握を要望する声が多かった。活動としてはワークショップ「風水害24」を実施して好評だったので地域に広めていきたい。
- ・組織の地域内に9つの地区があり、毎年役員が各地区に出向いて行って防災の取組を説明するなど座談会を行い、互いの意見を交換し合っている。活動としては各家庭に非常持ち出し袋等を配布したり、年1回訓練を行っている。作成した防災マップやひろしまマイ・タイムラインを活用した防災活動や、要支援者の支援について今後も取り組みを進めていく。
- ・町内会を母体とした組織となって6年くらいになる。役員は任期が1年だが、そのうちの何名かは退役後も、防災サポーターとして防災活動に協力してもらう体制としている。活動としては毎年新任役員に市の出前講座を受講してもらい、防災訓練も年1回実施している。また、町内会とも連携する必要があることから、町内会の夏祭りに炊き出し訓練という形で参加している。今年は要支援者への支援、きめ細やかな対応について活動していきたい。

## 2 地域住民の意識を高めるための工夫について

### 【参加者から】

- ・集まりに出てきてもらうのではなく、役員から話を聞きに行く、というスタンスにしている。
- ・みんなで集まると意見は出ないが、個別に話をしに行くのと快く動いてくれる。
- ・消防団OBにリーダーとして活動してもらっている。今後増やしていきたい。
- ・講話を聞くだけでなく、災害図上訓練、避難所運営訓練等参加者みんなでコミュニケーションがとれるワークショップをすると自分事として捉えてもらうことができる。
- ・普段から地域住民とコミュニケーションをとるように心がけ、何かあったら頼ってもらえるような関係づくりを目指している。

### 【市長から】

- ・コミュニケーションをとるために、地域に出向かれて話を聞かれたり、地域の皆さんが集まってワークショップを行うなど、工夫を凝らしておられる。
- ・新しくできた組織さんの活動の中でも、図上訓練などのワークショップを取り入れられたら、コミュニケーションをとるためのきっかけ作りとなる。

## 3 自主防災組織連絡協議会としての活動や考え方について

### 【参加者から】

- ・どの組織も人材の育成が必須。三原市では防災士や防災リーダーの養成を行っているため、養成した防災リーダーと組織を結びつける活動を重視したい。
- ・自主防災組織の新規設立についても進めていきたい。
- ・市全体として防災意識の向上、「自分の命は自分で守る」と一人一人が思えるような活動をしていきたい。
- ・地域ごとに特性があるため、できる限り地域に出向いていきたい。

### 【市長から】

- ・地域ごとに特性がある中で、世帯数が少ない組織と多い組織で活動の進め方の違いはあるか

### 【参加者から】

- ・自分の組織内でも一部世帯数の少ない地域があるが、周りを引っ張ってしてくれるリーダーがいれば防災活動が活性化する。訓練は組織で行うが、実際の災害時は地域単位で動いてもらうこともできる。
- ・他の地域と合同で訓練を行うというのは良い考えである。ただ世帯が少ない地域でも、それぞれの思いがあり皆が同じ方向に向くとは限らない。やはりコミュニケーションが重要と感じる。組織の規模を考える必要性もあると感じる。

### 【市長から】

- ・規模の違う組織について、担当課としてはどのように考えているか

### 【担当課から】

- ・どちらにもメリットはあると考える。地域の特性に応じた組織が重要。市としては同じ組織として支援する。

#### 4 まとめ

##### 【参加者から】

- ・地域住民をどのように巻き込むか、今いるリーダーの後継者をどのように育てていくか、5年後、10年後を見据えた活動が必要。子どもや孫の世代が地域に安心して住み続けることができる体制づくりのため、各組織で活動を発展させていければと思う。

##### 【市長から】

- ・地域の皆さんの命、財産を守るために各会長さんがリーダーシップを発揮していただいていることに敬意を表したい。
- ・地域でのコミュニケーションというのがキーワードだと思う。皆さんと力を合わせて市民の命・財産を守っていきたいと考えているので、今後とも連携させていただきたい。